



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## はきものをそろえると…

昇降口に「はきものをそろえる」という詩が掲示されている。

6年の先生が、子どもたちに伝えたいという願いを込めて昇降口に掲示されたものだ。

はきものをそろえると心もそろろう

心がそろうとはきものもそろろう

こんなことばから始まるこの詩は、「はきものをそろえる」ということを、つづけて取り組むことのよさ、だまってそろえることの尊さ、そしてこうした小さなおこないが広まっていくことのすばらしさにつないで表現されている。ぬぐとときにそろえておくと、はくときには、心は確かにみだれない。一つひとつのことをきちんと整え、しっかりと取り組んでいくための大前提として、自身をみつめること、心を落ち着かせ、無作為であることが求められているようにも思えてくる。

そんなことを思いながら校舎内を巡っていると、トイレのスリッパを黙々とそろえている子どもたちに出会った。「ああ、気持ちいいなあ」と感心して声をかけると、にっこりと笑みを浮かべ、満足げに深くうなずいた。

また、3年生の先生は、こんな作文がありましたと紹介してくださった。

「…だれかわからないけど、トイレのスリッパをならべていました。女の子がならべていました。わたしもならべていた人のまねをしてみたいと思いました。トイレのスリッパをならべてくれてすごいきもちよかったです。…」

さりげない心づかいをもって、自分たちの生活をそっと整えていくこと、自分の日々の生き方を見つめることは大切なことであり、ぜひとも身につけたいことである。しかし、だからといって、「しっかり取り組むように」と、取り締まりのようなかたちで強要すべきものでもないだろう。自分ができていないことを他者から指摘され、取り組むよう言われるよりも、よさにひかれて、すなおにできていく方が、気持ちがよいものだ。「ありがとうね」の言葉も自然と出るようになる。

子どもたちの姿に心が洗われた、そんな瞬間だった。